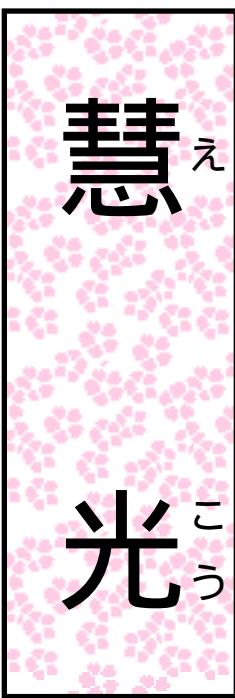




四分咲き、当山境内地のソメイヨシノ (今月5日撮影)



金光寺寺報
第178号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

くがじ かた ふなじ たび やす
陸路のあゆみ難けれど 船路の旅の易きかな

親鸞聖人が仰いでいかれた、インド・中国・日本の三国にわたる七人の高僧がおられます。「正信偈」に讃えられている七祖は、「阿弥陀さまよりたまわる本願の念仏」を説かれた高僧でした。第一祖は龍樹菩薩です。今月のことばは、「正信偈」の龍樹菩薩を讃えられた一連の

親鸞聖人の時代、関東から京都までかかる日数は、おおよそ二、三週間だったと考えられます。陸路を自ら歩いていくことは難事であり、決して気を緩めることはできなかつたはずで

しかし、同じ道ゆきであっても乗り物に乗せられるのであれば大きく状況は変わり、旅人の心持ちも楽しく安心なものとなります。いわば、この乗せられる安心が陸路の難行に対する、船路の易行のお心です。お念仏は、あらゆる人々に成り立つ易行の仏道として完成し、ひらかれてあったのです。凡夫という仏教的に劣った者を漏らさない、すぐれた救いがととのっているのです。ですから陸路を歩むに対して水路の乗船は、乗せられるものの能力が問われない、ほんとうに安心できる道ゆきだったのです。

龍樹菩薩がひろく説き示した教えは、あなたもわたしもともに、本願念仏に乗せられて往く仏道だったのです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- 4月 9日(土) 午後~ 11日(月)まで
5月 12日(火) 終日
6月 23日(月)~ 26日(木)まで
7月 1日(水) 午後~ 2日(木) 終日
10月 26日(火) 終日
11月 15日(土) 午後 16日(日) 終日

3月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。
2016年 3月 6日寂満93歳 波帰 佐藤 アサエ 様
2016年 3月 13日寂満74歳 古賀西 興 杵 實 様

ホームページ開いています。
URL http://konkhoji.jp/
4月6日現在 アクセス数 77,239人

朝、当山前県道の落ち葉掃除をして、中学校の職員室を見たりとカーテンが閉まっています。梵鐘を撞く時、点いていた職員室の電気は四月に入り点くことにはありません。中学生が登校する姿を見ることができなくなりました。こんな光景を目の当たりにし、中学校が閉校したのだなと実感する日々が訪れました。この思いはいつになつたら起らなくないのでしよう。改めてとても残念です。NHKの連ドラ「あさが来た」見れなくなり楽しみが減つたのですが、その後作「と姉ちゃん」を見て、また半年楽しめるなと思いつれしくなりました。今日(六日)の放送、見られました。父竹蔵のことは良かったですね。「当り前の日常が、大切な瞬間の積み重ねなのです。だからとて感動しました。当り前であることを当然と思つてしまいがちですが、その当り前がとて大事な晴らしさを教えてもらいました。これからの展開がとて楽しみます。(住職 松井卓郎)

住職ひとりごと

仏教用語豆辞典

他力本願

「この一敗で、自力優勝の道は絶望ですね。あとは、他力本願に頼るしかないですね」スポーツ報道でよく聞かれる話です。

この場合、これからいくらかち続けても優勝はできない。今度は相手が負けるのを待つしかない、という意味でしょう。このように「他力本願」は、もっぱら他人の力をあてにする、他人まかせという意味で、いろんな場面で使われています。これは大変な誤解です。親鸞聖人は「教行信証」に「他力といふは如来の本願力なり」と明示しておられます。だから、他力とは、他人の力ではなく、仏の力、阿弥陀仏の慈悲のはたらきをいうのです。仏さまの生きとし生けるもの

を救わずにはおれないという強い願いのはたらき、これが「他力本願」なのです。今、ご本山では、親鸞聖人のご正忌報恩講が勤められています。この期に、聖人の根本の教えである「他力本願」を正しく理解し、聖人のみ教えに生きていたいものです。

(本願寺出版社発行 辻本敬順著 仏教用語豆辞典一〇〇PART 1から)

浄土への人生

阿弥陀如来は、煩惱によってさとりに至ることのできない凡夫を哀れみ、あらゆる功德を南無阿弥陀仏に込めて私たちにふり向けておられる。

親鸞聖人は仰せになる。

臨終一念の夕、大般涅槃を超証す

いのち終わるとき、すみやかに浄土に生まれ、この上ないさとりを開かせていただく。南無阿弥陀仏のはたらきに出あうものは、むなししい迷いの生を二度とくり返すことはない。

如来のはたらきに出あう人生は、無常のいのちを生きながら、かならずさとりの浄土に生まれゆく、むなしく終わらぬ人生である。

(『拝読 浄土真宗のみ教え』二十七頁)

法語の世界

〈原文〉

善知識の仰せなりとも、成るまじなど思ふは、大なるあさましきことなり。成らざる事なりとも、せならば成るべきと存すべし。この凡夫の身が仏に成るうへは、さてあるまじきと存することあるべきか。しかれば道宗、近江の湖を一人してうめよと仰せ候ふとも、畏まりたると申すべく候ふ。仰せにて候はば、成らぬことあるべきかと申され候ふ。

(蓮如上人御一代記聞書 百九十二)

〈現代語訳〉

よき師の仰せではあるが、これはとつて成就しそうにないなどと思うのは、大変嘆かわしいことです。成就しそうにないことであっても、よき師の仰せならば、成就すると思いません。この凡夫の身が仏になるのだから、そのようなことはあるはずがないと思うほどのことが他に何かあるでしょう。か。そういうわけで、赤尾の道宗は、「もし蓮如上人が、道宗よ、琵琶湖を一人で埋めなさい」と仰せになったとしても、かしこまりましたとお引き受けするだろう。よき師の仰せなら、成就しないことがあるのか」といわれたので

四月、新年度を迎えました。暖かい日々が続く、当山のしだれ桜はもう満開を終えちり始めています。一方、ソメイヨシノは今日(六日)三分咲きという状況です。今週末頃に見ごろになるのではないのでしょうか?

今月二日、四日とお二人のご門徒がご往生のことでした。お一人は満九十五歳、もうお一人は満六十歳。蓮如上人が『御文章』「白骨章」に

されば、人間のはかなきことは老少不定のさかなれば

と仰せのように、いつ往生の時を迎えるかわかりません。六十歳の方は私より一学年上の方でしたので、とりわけ、その意をつよくしました。さて、今月も先月に続き、『拝読浄土真宗のみ教え』から法語を掲載しました。「浄土への人生」いかがですか。私たちは生涯煩惱を持ったまま生き続けていきます。お

釈迦さまは成仏するため、煩惱を滅するみ教えをお示くださいました。ひとつは修行をおさめて煩惱を滅しさとりを開く道。ひとつは仏力(他力)のはたらきをもって臨終のときに煩惱を滅し、浄土へ救われさとりの智慧をたまわ

る道。私たちは後者、阿弥陀如来が私たちのためにご用意くださった南無阿弥陀仏のはたらきをもって、臨終のときに煩惱を滅していただき、阿弥陀如来の極楽という浄土へ救われ、さとりの智慧をたまわ

る道。そして、ひと度救いのご縁にあずかれば、二度と迷いの世界をへまぐることは無くなります。

その歩みが「浄土への人生」です。南無阿弥陀仏に出あうとむなしく終わらぬ人生を過ごしていける、「死にとうない、死にとうない」と言いながら、安心して往生の時を迎えられる、そんな念仏無礙の人生を歩みたいものです。

専如門主伝灯奉告法要団体参拝

募集のお知らせ

本年十月から本山西本願寺では、専如門主が前門さまから法灯を継承されたことを報告する法要を十期に渡り執行します。高千穂組では、明年四月二日から二泊三日の日程で法要参拝を行います。つきましては、団体参拝の募集を行いますので、参加を希望される方は金光寺までお問い合わせください。なお、当山からは住職を含めて十名の参加となります。

臨終勤行について

2015(平成27)年3月号の寺報で葬儀事情について、誤っている点を示しました。その中で、「臨終勤行を済ませてから、お通夜・葬儀の打ち合わせを当家・葬儀社・寺院で行いましょう」とふれたのですが、臨終勤行前に葬儀社と当家で打ち合わせを済ませ、その後、臨終勤行のお参り準備ができた旨の連絡をされているようです。

臨終勤行は故人をお救い下さったご自宅の阿弥陀如来さまに故人に代わってお礼を申させていただくおつとめです。何よりも優先されなければならないものです。

どうぞ、お身内の方がお亡くなりになられ、ご遺体がお仏壇の前に安置されたら、打ち合わせをされる前に「臨終勤行お参りの準備ができた」旨の連絡をください。